



第1218号(特別号)

2011年7月31日発行

日本聖公会東京教区
広報委員会

港区芝公園3-6-18

Tel 03(3944)0987

Fax 03(3433)8678

編集人 英 久子

— 植田仁太郎主教退職記念特別号 —

全能の神・正義の神？

第8代東京教区主教 主教ペテロ 植田仁太郎

健康上の不安を抱えることになり、みなさまにご迷惑をおかけすることを承知で、早めに退職させていただきました。

新主教が与えられて間もなく、あの3月11日を迎えました。あの大地震は、被災された方々、避難を余儀なくされた方々はもちろん、私たちに様々な深刻な問いを投げかけました。信仰者は、「何故、全能の神・正義の神が、このようになむごい災厄をもたらすのか。東北のあの地域の人々は、何か神の怒りを招く罪深いことをしたのか」と、問い続けています。

健康上の不安を抱えることになり、みなさまにご迷惑をおかけすることを承知で、早めに退職させていただきました。

地震の時だったと言われている。やはり多くの人々が亡くなりました。しかし、それ以降は、天変地異との関連で「何故神はこういう災害を起こすのか」と問うことは余り無くなりしました。それは、自然科学・社会科学の知識が発展・普及し、別に神さまがボタンを押して地震や津波や噴火や洪水を起こすわけではないと、分かってきたからです。

天変地異の原因は説明されるようになりましたが、人間が人生の中で出会う、様々な不条理は説明できません。何故、愛する人を失い、財産を失い、病いに見舞われ、障害を負うことになり、人生を狂わされるのか…。説明できませんが、神さまが罰を与えたり、意地悪

をしてそうになっているのではないことは確かです。何故なら、神さまご自身がそういう不条理を体験されたからです。愛するひとり子を、十字架上で死なせてしまうという不条理に出会ったではありませんか。

全能の神さま、正義の神さまは、不条理に直面して呆然としている私たちと一緒に居られません。そしてそこから何とか一歩進もうとする私たちに力を下さいます。それが、「全能」ということです。不条理を引き受けそこから歩もうとする全ての人に、神さまは力を下さいます。それが「正義」ということです。



東京教区第8代主教ペテロ植田仁太郎師父は、2010年9月末をもって定年を待たずに退職された。同年1月に体調を崩され、集会中に緊急入院されたこともあった。東日本大震災の3ヶ月後、6月22日に開かれた教区常置委員会主催の「植田主教感謝会」には、お元氣な姿を見せられ参席した人々を安心させ、近況をまじえながら挨拶された。会のクライマックスでは、教区聖歌隊の美しいアンサンブルを楽しまれ、さらにご自身、ピアノへ向かわれて竹下ユキさん（聖アンデレ教会）とのデュエット「オーバー・ザ・レインボー」などに、柔らかく優しい余韻を残された。

今回、この特別号を作成するにあたり、特に労苦を共にしたと思われる数名の方に寄稿していただき、教区一同の感謝の気持ちにかえさせていただいた。（広報委員会）

主教室の祈祷台を前にしながら

東京教区主教 主教アンデレ 大畑 喜道

植田主教様本当にご苦勞様

でした。在任中のご指導に感謝申し上げます。

思えば在位の始まりから大変なことの連続でした。日々大小様々なことが、まさに大波小波のように押し寄せてきました。混沌とした現代社会、思いもかけないこととの連続。ペテロの手紙の一節ではありませんが、悪魔がほえたける獅子のように、誰かを食い尽くそうと探し回っている

るかのようでした。

2月に主教に按手されて以来、半年が過ぎようとしています。按手を受けてすぐに主教になるのではなく、主教になつていくのだとは思いつつ、今その道筋の厳しさ難しさをひしひしと感じています。司祭以上に、主教は神に希望をおき、信仰のうちに生きてきた人々の証し人として、キリストに全く服従していくという毎日を過ごさなければなりません



ん。時には大胆に、時には優しく、決断していかなければならなかったことと思います。主教は教区の全責任を負わされ、司祭の時とは比べようの無い重圧を受けます。植田主教のご苦勞も大きかったのだと想像しています。歴代の東京教区主教は蒔田主教、後藤主教、山田主教、竹田主教、そして植田主教とお体を悪くされました。しかし幸いにも植田主教は退位されてから少し体調も戻られ公務をこなされていることを嬉しく思います。

植田主教が在任中、常置委員長として、また司祭団の一

員として随分と失礼なこと、非礼なこと多かったのではなかったかと思っています。後輩である小職の非礼にも怒らず、愛をもって接して頂きましたことを本当に感謝申し上げます。司祭団が至らぬばかりにご迷惑をおかけしました。きっと日々悩まれていたことでしょう。今、主教室に残されている祈祷台を見るたびに、植田主教もここで人知れず日々祈られていたのだろうなと思つています。私も日々祈りのうちに、公会を發展させ、次へと引き継いでいくことができたらと願っています。神の恵みに支えられ、これからもどうぞ私たちのために祈り続けてください。本当にありがとうございます。これからもどうぞ東京教区、いや主の公会の發展のためにまだまだご指導いただけますようお願い申し上げます。

ひそかな羨望

北海道教区主教

主教ナタナエル 植松 誠

18〜9年前だったと思います。私が大阪教区の司祭として働いていた時、教役者会で、当時日本聖公会管区事務

所総主事であった植田仁太郎司祭を講師にお招きして、お話をうかがったことがあります。アングリカン・コミュニティの当時の状況やアジアにおけるキリスト教界の状況、そして、日本聖公会がそれらとどのような関わ

りをもっているかというテーマでしたが、植田総主事の豊富な知識、状況分析の的確さ、自己の信念に基づく論理の展開などに私はすっかり圧倒されて、さすが管区事務所総主事とはこのような人なのだ



納得したことを今も鮮明に覚えていません。ですから、その植田総主事の後任に私が選ばれた時には、私には絶対に務

まらないと大いに抵抗したものでした。

私が総主事に就任し、仕事の一環としていろいろな状況において手紙を書くことがありましたが、植田前総主事から引き継いだファイルに残さ

れた彼の出した書簡のコピーに私はいつも舌を巻いたものでした。私が典型的なアンビヴァレントでファジー(どちらとも言えない曖昧さを持つ)な日本人であり、はっきりりともが言えないのに対して、植田総主事は、極めて明快に、また合理的に物事を判断してそれを相手に伝え、また相手に対しても白か黒かを明確に問いただしていたからです。「相手が私の心中を察してくれるだろう」という私の手紙の書き方は、何とか対立や緊張を避けたいという私の臆病さから出たものですが、物事をきちんとして決めていかななくてはならないアドミニストレイターとしてはこのような書き方では落第であることを、植田総主事のお書きになった書簡を見ては思い知らされ、ひそかに羨望の念を抱いていたものでした。

植田司祭が東京教区の主教に就任されてからは、主教会のたびに、植田主教のこのような賜物に私は圧倒されていたように思います。聡明さと状況の分析力、そして自分の信念にしっかりと裏打ちされた議論の展開は、常に物事の核心を的確に捉えて、周りを納得させ、進むべき方向を示していつてくださったと思います。私には持ち合わせのない賜物を持った方として、退職された今も、私にとつては植田主教様は羨望の対象なのです。(日本聖公会首座主教)



植田主教にお仕えして

小川 昌之

2002年1月、耳慣れない方のお声で自宅の電話が鳴りました。金融関係の会社をその年の3月末に定年(60才)退職することになっていた私に、教区事務所で働きましたか、との誘い電話でした。

植田主教様直々のお電話でした。非力の私に務まる訳がないと思いつつ、お役に立つこともあろうかとお請けして今日までできました。主教になられた翌年から、体調を崩されてご退職になるまでの8年半、お傍に仕えたことになりました。

主教室をお訪ねすると、よく外国語の書物を読んでおられました。信仰と生活委員会主催の講座「現代の信仰」の講師としてお考えを披露されましたが、世界を広く深く見つめ、常に先を目指しておられたように思います。

ご就任直後の財務不正事

件、牧師・神学生の不慮の死、牧師の定年前退職・休職、聖職候補生の他教区移籍等いろいろご苦労されましたが、尊敬のうちにご一緒させていたできました。

ご在任中に、阿佐谷の牧師館、八王子の礼拝堂・牧師館・幼稚園園舎、三光の礼拝堂・事務所の建替え、大森の礼拝堂改築、小笠原の隣地、月島の敷地購入等があり、最後に、月島聖ルカ保育園による保育事業の社会福祉法人「ひかりの子」(新設)への移管、月島を宣教拠点として評価し、その礼拝堂建築の先頭に立たれたことなど忘れることが出来ません。

ご健康を心からお祈り申し上げます。(総主事)

植田主教ご退任によせて

宮脇 博子
宣教主事を拝命して最初の

ご指示は、信徒研修プログラ

ムの企画と社会問題に関心をもち、苦しむ人々のために活動する信徒を応援する体制を作ることでした。様々な有意義な信徒講座ができたと思っています。おかげで私自身も全ての講座に出席でき、それは幸せなことでした。旧約聖書が何千年の人間の罪と懺悔、神の赦しと恵みの壮大な歴史を語り、現代の信仰と直結するものであることがわかりました。又、ガンジーの言葉に「献身なき信仰」は「社会的大罪」という項目があるのですが、植田主教の心の中にもその思いが強くなると思います。助ける人がなく困っている人が居れば手を差し伸べる、誰もが嫌なこと避けたいことができるのがクリスチャンでしょう、とおっしゃいました。

植田主教様ご退任によせて
宮脇 博子
宣教主事を拝命して最初の
間の思い・罪・悲しみ・苦しみ

等に直面し、どんなにご苦労

なさったかとお察し致します。なぜなら、植田主教ご自身は私心のない、すつきりとした強い心をお持ちだからです。主教にも不得意分野はあると思います、主事会で苦しい思いを打ち明けられたこともあります。チャプレンと主事達は植田主教の透感あるご判断に納得し、いつも信頼していました。植田主教が東京教区で選出されたのも、この10年の歩みも神様のご計画だとすれば、どのような恵みを東京教区の人々・植田主教ご自身に頂いたでしょうか？

どうかそれを教えて下さいと、心から祈ります。でなければ、東京教区に新しい活力は生まれませんでしょう。

(元宣教主事)

植田主教様に感謝

司祭 鈴木 裕二
2002年6月22日、私は

植田主教様の就任後まもなくの聖職按手式において司祭に叙任されましたが、その9年後の同じ日に植田主教様への感謝の会が開催されたことは、私にとっても大変記念すべきことです。

真光教会牧師の時、2007年4月の教区人事異動により、私は教区主教チャブレンに任命されました。それから教区主教を退任される2010年9月までの3年半の間、植田主教様のお近くで仕えることとなりました。他の聖職と同じように、一教役者としてご指導いただいたことは数多くありますが、お近くで直接お考えなどを伺うことができましたことは、大きなお恵みであったと言うほかにありません。

教会は「主の平和」と毎主日祈りを込めながら挨拶を交わしているにも拘らず、様々な出来事が起こりますが、植

田主教様の在任中もその例外ではありませんでした。次々に大小様々な問題が発生しました。それらは、教区内のこと、外部にも関わることで、聖職のこと、信徒のこと、個人のこと、教会のこと…と多様ですが、主教様がその一つ一つに対して、解決のために真摯に取り組みましたからこそ、心労が重なり、更には体調を崩されたことは、お近くでよく分かりました。主教様のお務めが想像する以上に、いかに過酷であるかを感じさせられました。ご自身の限界までお務めを全うされた主教様に感謝致します。

植田主教様には、これから心身ともに健康に留意され、これまでと違ったところから教区のために、一人一人の教役者のためにご指導いただきたいと願っております。

(主教チャブレン)

グローバルな信仰の功績

司祭 神崎 雄二

植田主教(当時執事)のお働きのごよさを知ったのは、私が日本キリスト教協議会に入った時の事である。彼が担当していた職務全般のファイルが残っており、それを参考にした。しかしその範囲の広さと内容の深さは、ものすごいものであり、とてもこんな仕事を引き継ぐことはできないと実感した。特に国際的な任務においては、足元にも及ばないことを思い知り、絶望感を味わった。

その後、同師はアジアキリスト教協議会の開発部門

幹事としてアジア各国を走り回って活躍され、その後はアジア学院の校長にもなられ、一貫して海外諸教会との協働を進める分野での働きに従事された。この分野に於ける諸外国の評価は、きわめて高い。そんな経歴を持つ同師が、東京教区の主教になられて、「さすがだ!」と思いつたのは、私が聖地エルサレム教区での研修を終え、帰国後ただちに状況報告を教区内でし



(エルサレム教区リア主教と共に)

た時のことである。私はここ

1〜2年、十分な準備期間を経て、教区レベルのエルサレム教区訪問を企画するつもりであった。ところが植田主教は、「そんな悠長なことを言っていてはだめだ。ただちに訪問団を組織しよう」と言われ、こうして第1回の訪問団がただちに組織され、以後エルサレム教区協働委員会が発足、年々行き来が始まり、今に至るのである。

教会が国際的な交わりから外れる時、偏狭な宗教に陥ってしまう事は、先の戦時中の体験からも明らかである。東京教区が、正統信仰を保つことのために、諸外国との交流は不可欠であり、この点における植田主教の果たされた功績は、まことに大きいと言わねばならない。

(エルサレム教区協働委員会委員長)

残された宿題

黒澤 圭子

植田主教のもとでは、教区事務所会計管理体制検証特別委員会の委員、教区事務所の財務主事、そして常置委員として働かせていただきました。それぞれの職務は違いますが、私にとってはどれもが重たいものでしたので、頭も手も足も高速回転の植田主教の後ろから走っていくのが一杯のありさまでした。とても充分にお支えできたとは思っておりませんし、おそらく周回遅れもあったような気が致します。そのような植田主教のお働きの中でも強く印象に残っているのが、エルサレム教区との交わりの道筋をつけられたことです。その交わりが始まった



2004年の教区会開演会で植田主教は、「力関係の中では不可能と思われる平和を希求し、パレスチナ人の苦悩をとともに担い、その中で旧・新約聖書のメッセージを新たに聴き直そうとしているのがエルサレム教区の教会の姿です」、「その人々との交わりは、現代の諸問題に直面する私達に何らかの光を与えてくれるかも知れません」と述べられました。私達はその進み行き

の中で光を見つけることができているのでしょうか。いつまでも終わらない宿題を心の中に転がし続けていくことが私達に残されたことと実感し

ております。そして、植田主教とご一緒したエルサレム教区への旅では、クールに見えて実はホットな植田主教を垣間見たつもりになっております。お身体をどうぞお大切に、そして暑い夏の日の鹿島アントラーズの応援はほどほどになさいますように。

(常置委員・前財務主事)

植田仁太教主のこと

松田 正人

イベントの幹事ならともかく、真面目な文章の苦手な私にお鉢が回ってきました。そうか常置委員歴8年目の私は、その大半を主教とすごしたのだなあと改めて思いました。問題山積の教区にあつて、主教ほど割の合わない役目はないと心底思います。お疲れ様でした。霊的指導者であるばかりでなく、実務の総責任者、いわば経営者として

の期待もされてしまいがちでした。ふがいない常置委員やスタッフが充分にお支えして、宣教の中心としての発信と、聖職への牧会一本に絞っていたら、身体に障ることもなかったのではと反省します。事務能力や英語力などのタレントや、優しく、親しみやすい性格が邪魔をしたこともありました。

人事や組織のあり方についても、もっと冷淡でいらしてもよかったのではないかと想像します。本当になさりたいことが何であったのか、お聞きしてお手伝いすべきでした。

教区聖歌隊メンバーでもある私は、主教座聖堂などで多くのお説教に触れてまいりました。

主教のお説教でもっとも印象に残っているものを再掲して文章を閉じます。

「信仰と音楽は似ている」というものでした。「絵画と違っ

て、作曲家の楽譜が本物ということではなく演奏者の演奏こそが本物であるように、キリストに倣ったキリスト者の生きようこそ本物の信仰があるのだ」というメッセージだったと理解しています。



現役主教でなければ、健康は大丈夫。これから益々福音を伝え「人間を漁ごるペテロ」でいてくださいますように。

(常置委員)

教区はバーチャルな存在

古谷野 巨

植田主教様のもとに作られた教区企画室の座長を6年間の務めさせていただきました。委員は私を含めて6人でしたから、主教様と総主事を加えた少人数で、ほぼ毎月、2〜3時間の会合をもつことができました。私にとっては、教区主教という方の近くにいられた最初の経験です。それまでの教区主教のイメージは、赤い衣で杖を持ち、正しいけれど抽象的なことしか言わない方、というものでした。しかし、近くでみた植田主教様には、仕えるリーダー(サーバント・リーダー)の姿と教区の責任者として日々労苦する姿がありました。

植田主教様が言われたことのひとつに「教区はバーチャルな存在」ということばがありました。最初に耳にしたときには

驚きました。聖公会の伝統や法規、宗教法、さらには教

役者の俸給が教区から支払われている現実からいっても、教区がバーチャルな存在であるはずがないからです。しかし、目に見える形で日々活動しているのは個々の教会で、教区はその背後にある見えない存在であるのもまた現実です。教区が何かをなそうとするときに、しばしば立ち現れてくるのが、見える教会と見えない教区という現実です。「教区はバーチャルな存在」ということばは、この現実と直面してのものであったと思われま

結局、教区企画室は多くの方のご期待に十分に応えることができませんでした。責任を果たせなかったことを悔やみつ、数々の貴重な学びの機会をお与えいただいた植田主教様に御礼申し上げます。

(前教区企画室座長)

❖ペテロ植田仁太郎教区主教《在職略年表(関連事項付)》❖

2000年 11月=東京教区第90(臨時)教区会で次期教区主教に被選。
 2001年 3月=主教按手式、第8代東京教区主教に就任(立教女学院聖マリア礼拝堂)。4月=教区事務所新体制化着手。5月=米国聖公会メリーランド教区へ出向。9月=教区フェスティバル開催(香蘭女学校)。教区財務主事(当時)による横領事件発覚。10月=フィリピン聖公会宣教百周年記念式典参列。日本聖公会年金資金関連の諸委員会委員長就任(～2010年5月)。11月=第93教区会を初召集、教区機構検討特別委員会設置。
 2002年 5月=宗教法日本聖公会常議員(責任役員:～2010年5月)、管区エキュメニズム委員会委員長(～2004年10月)就任。11月=第95教区会召集。「宣教委員会」を「信仰と生活委員会・正義と平和協議会」へ改組するなど機構改訂。
 2003年 1月=教会委員合同礼拝・祝福式。3月=第96教区会召集。緊急動議により米国のイラク戦争に反対するピースウォーク通過中「打鐘」参加。6月=香蘭女学校理事長就任。9月=教区成立80周年教区フェスティバル開催(立教女)。10月=教区婦人会解散決議(80年の歴史終幕)。11月=第97教区会召集、幼稚園委員会設置を決議。
 2004年 1月=教区諸委員合同礼拝・祝福式。2月=聖公会エルサレム教区訪問(随行11人)。8月=聖職養成委員会・聖公会神学院・常置委員会合同研修会(ナザレ修女会)。ミャンマー聖公会農村開発事業検討会議へ参席。9月=リア主教らのエ教区訪問団交流プログラム(含教区フェスティバル参加)。11月=第99教区会でエ教区協働委員会設置・主教直属特別委員会「教区企画室」設置を決議。教役者メンタルヘルスケア取組み開始。
 2005年 1月=新年礼拝・教会委員合同礼拝。2月=米国聖公会ハワイ教区出向、教区「一粒の麦の会」発足。3月=教区HPでの「主教メッセージ」定期連載開始。第100教区会で「教区主教選挙特別委員会規則」を制定・施行。4月=ソウル教区主教按手式参列。7月=第2回エ教区訪問。10月=東アジア教会協議会東京大会へ実行委員長として参画。
 2006年 4月=管区・宣教協働者招聘委員会委員長就任(～2008年5月)。5月=エ教区訪日団交流プログラム。7月=ウィリアムズ主教記念基金委員会委員就任(～2010年7月)。教区時報1000号特別号発行。10月=韓国スタディツアー「オウルリム」実施。11月=米国聖公会ショール総裁主教就任式参列。12月=ソウル教区訪日団交流プログラム。
 2007年 1月=大韓聖公会聖職神学研究会議参席(水安堡)。3月=銀座朝拝会700回(満34年)記念集会。第104教区会で月島聖公会将来計画検討特別委員会設置。4月=聖公会神学院内で生じた人権問題調査チーム発足。8～9月=エ教区ヘボランティア団訪問。10月=ソウル教区へ「ナヌムの旅」実施。11月=第105教区会でインターネット活用および港区芝公園敷地内諸施設将来計画の各検討特別委員会の設置決議。ソウル教区来日団(野宿者支援関係者)の交流プログラム(～12月)。
 2008年 5月=日本聖公会宣教150周年記念礼拝実行委員会委員長就任(～2010年5月)。ソウル教区金根祥後継主教按手式へ参列。7～8月=第14回ランベス会議出席(カンタベリー)。8月=アンマン会議(エ教区共催)へ訪問団。10月=財政委員会・教区企画室合同のソウル教区訪問。11月=第107教区会でハラストメント防止機関連準備委員会設置決議。
 2009年 1月=教区新年礼拝・教会委員合同礼拝。ソウル教区主教着座式参列。3月=第108教区会で月島聖公会・月島聖ルカ保育園将来計画準備室設置。7月=日本プロテスタント宣教150周年記念大会(横浜)。9月=日本聖公会宣教150周年記念礼拝決行(東京聖マリア大聖堂)。カンタベリー大主教の長崎・大阪訪問に随行。11月=第109教区会で教区費分担金制度検討特別委員会設置。
 2010年 1月=集会中、体調を崩し緊急入院(大動脈解離、4月に職務復帰)。2月・3月=第110(臨時)および第111教区会開催(議長・廣田勝一管理主教)。6月=辞任願提出。7月=第112(臨時)教区会召集、次期教区主教選挙(非選出)。教区会終了後に辞任報告(翌2011年3月を待たずに9月末で辞任)。9月=退職。11月=第113(臨時)教区会で次期主教に大畑喜道司祭を選出。

【植田主教執行の執事按手拝領者】佐久間恵子、石坂みゑ子、神崎和子、須賀義和、シーバー・ケビン、大森明彦、中村淳、卓志雄(計8人)【同、司祭按手拝領者】出村クリスチーナ、藤井慶一、鈴木裕二、菅原裕治、石坂みゑ子、神崎和子、李民洙、須賀義和、シーバー・ケビン、上田憲明、大森明彦、中村淳(計12人)【同、堅信受領信徒数】1093人

略年表制作 伊藤裕元(前広報委員長)